

# 牛久：学校周辺に見る自然

第43号 ひたち野うしく小うら

2016年11月8日発行

## < 学校うらの通路を歩いて >

こんにちは。今回は、ひたち野うしく小3年生との観察前に学校うらの通路<sup>つうろ</sup>で出会った生きものたち。



つる植物のヤブガラシに集まるハチのなかま(上左)、ヒメスズメバチ(上右)、フタモンアシナガバチ(下)。

学校うらの通路<sup>つうろ</sup>では、フェンスにいろいろなつる植物が巻きついています。その一つがヤブガラシ。第26号でお話したように、いろいろなハチやチョウのなかまがやって来ます。大部分はつかんだりいたずらしなければ向うからおそってくることはありませんが、オオスズメバチなどは攻撃<sup>こうげき</sup>的な時期<sup>じき</sup>もありますから気をつけましょう。つる植物は他に、ヘクソカズラやマメアサガオも見られました。



ヘクソカズラの実<sup>み</sup>(左)と、マメアサガオの花<sup>み</sup>と実(左)。どちらもつるで、フェンスに巻きついていた。



アキノノゲシの蜜を吸うハチ(左上)と、オニタビラコオニタビラコの蜜を吸うヒメハラナガツチバチヒメハラナガツチバチのおす(右上)、秋になるとよく見かけるウラナミシジミ(左下)、胸部の盛り上がりでクルマバツタクルマバツタと見分けられるクルマバツタモドキ(右下)。

秋、咲いている花は少ないけれどハチやチョウがかわるがわる訪れては蜜や花粉を食べて行きます。ウラナミシジミも11月になってもまだ見られます。路上にはクルマバツタモドキが飛んできました。



職員駐車場の入口まで来ると、背の高い大きなアザミが咲いていました。その名もタカアザミ。花にはキタテハやキンケハラナガツチバチなど、いろいろなハチやチョウがやってきます。およそ1か月後には、これまた大きなタネが出来ていて、風がふくと次々と飛んで行きました。虫たちが花粉を運んでくれるおかげでよいタネができ、かわりに虫たちは蜜や



花粉をたっぷり食べます。助け合っているようにも見えますが、虫たちは食べものがほしいだけ、アザミも花粉を運んでもらえるようにそう進化したただけなのだそうです。最近最近は全く依頼がなく残念ですが、数年前、5年生に花粉の運ばれ方の授業をしたこともありました。

タカアザミの蜜を吸うキタテハとキンケハラナガツチバチ(左上)。こちらはキタテハとセイヨウミツバチ(右上)。1か月後、タネが飛んでいた(下)。



シラカシ(左上)とカラスウリの実(右上)。  
カナムグラの葉にウラギンシジミ(左中)。  
ジョロウグモ(左下：下の大きい方がめす)。  
クズの葉にとまるアキアカネ(右下)。



プールの入口まで来ると、<sup>ほんたいがわ</sup>反対側にシラカシの木とつるがからまったヤブがあります。シラカシにはどんぐりが<sup>じゅく</sup>熟していました。そしてまっ赤なカラスウリ。よく見ると、つる植物のカナムグラの<sup>は</sup>葉のうらにウラギンシジミがかくれています。ジョロウグモのめすとおすもそろっていましたが、網にはトンボが頭だけ残して食べられていました。日がよく当たるクズの<sup>は</sup>葉には、アキアカネが飛んできて、しばらくじっととまっています。はんいはせまいですが、ごらんのように学校のまわりや校庭をちょっと歩いただけでも、いろいろな虫たちが見られます。近くにみずべ公園があつたり、校庭にピオトープや池があり、<sup>かだん</sup>花壇にはいろいろな花が育てられ、少しはなれて小野川や田んぼが広がっていたり<sup>ぞうきばやし</sup>雑木林があつたり、そうしたことが重なって、いろいろな生きものがやって来れるのだらうと思います。今回、3年生は動物の観察でしたが、この記事ではなるべく植物についても書くようにしています。お互いにつながっていて、<sup>たが</sup>影響を及ぼし合うからです。<sup>えいきょう</sup>珍しい生きものを守るという時も、それとつながる生きものも<sup>ふく</sup>含めくらし<sup>かんきょう</sup>ている環境ごと守らなければむずかしいのです。【理科支援員：宮内】